

ONE UNIVERSE, ONE PEOPLE

Copyright 1991

Steven M. Greer, M.D.

一つ宇宙，一つ人々

著作権 1991年

スティーブン・M・グリア、医師

([CSETIのウェブサイトより](#))

人類が歴史を通じて直面してきた最大の課題の一つは、多種多様な人々の間に融和と平和を確立することである。性別、人種、民族的出身、国籍、宗教といった表面的、外見的、文化的な差別が長い間人類を分断し、多くの戦争や社会的混乱の原因になってきた。人間が世界的規模で真剣に融和点を模索し、人類を分け隔てている障壁を克服し始めたのは、この百年ほどのことにすぎない。この進化の過程の中心をなすものは、多様性を受け入れ讃えながら、同時にすべての人間が共有する基本的な一体性（oneness）を見るということであった。この融和の原動力 - 一体性の視点で見ること - は、世界の恒久平和と繁栄の最も重要な礎であり、次の千年の行動原理となるものである。偏見を克服し、人類の本質的な一体性を受け入れるという、長く苦痛に満ちた過程は、決してまだ完結していないとはいえ、一つ人々（one people）という、真に世界をつなぐ共同体の黎明期に我々を導いたのである。人間は人間性を共有するという点において一つなのであり、人種、国籍、性別、宗教などは二次的なことにすぎないという認識は、実に二十世紀最高の偉業と言えるであろう。

しかし、人間であるとはどういう意味なのか？ 純粋に生物学的定義を離れて、本質的に人間であるとは？ 我々の最も深い融和点は、人種、文化、性別、職業、人生での役割、さらには知的水準、感情的気質といったものをさえも超越する。これらの属性のすべては、人々の間で大きく異なるからである。むしろ人間の一体性の基盤は意識そのもの、すなわち意識を持ち、自己を認識し、知性を持つ知覚者となり得る能力である。他のすべての人間性は、あらゆる属性の根源であるこの意識より生じる。意識的知性は、他のすべての人間性が生じる場所の根源的本質である。意識は普遍的であると共に基本的に純粋なキャンバスであり、その上に目もくらむばかりの多様な人生が現れるのである。人間融和の最も堅固にして永続的かつ超越的な基盤は、意識そのものである。なぜならば、我々はすべて知覚する存在であり、意識を持ち、自己を認識し、知性を持つからである。この意識という基盤は、すべての人間が共有する最も単純な、しかし最も深い共通の土台であるがゆえに、二人の人間や二つの文化がどれほど異なろうとも、融和が広く行き渡ることを可能にするのである。

人間にとり、融和の課題はこれまで困難であったし、これからもそれは続く。しかしそ

れならば、人間と地球外文明との間に生まれつつある初期関係の困難さは、それにもましてどれほど大きいであろうか。たとえば、米国人とケニア部族民との間の表面的、文化的な違いは、人間と地球外文明との間にあるそれよりもはるかに小さいのである！ もし不和や闘争が、我々が人間の間の違いのみに目を向けるときに起きるものだとする、我々が人間と地球外存在者との間の相違点しか見ることができない場合、起こり得る不和と闘争はさらにどれほど大きくなるのか。失敗した過去の破滅的見方 - 違いと異質性のみを見る - は、新しい見方に道を譲らなければならない。すなわち、一体性の視点で見るということである。この一体性の視点は我々人間のみならず、地球外の人々にも同じように向けられなければならない。人間の間にある融和の基礎と同じものが、人間と地球外の人々との関係にも存在するからである。

地球外知性体 (Extraterrestrial Intelligence; ETI), このひどくありきたりな表現は、見事なまでに融和の概念に適している。地球外知性体はその起源の惑星, 恒星系, 銀河系が何であろうと, またどれほど様々に異なろうとも, 本質的に知性を持ち, 意識を持ち, 知覚する存在である。人間も本質的に知性を持ち, 意識を持ち, 知覚する存在である。我々は本質的に同じ存在なのである。この基礎の上に, 今我々が '一つ地球の子供として一つ人々' を思い描くように, '一つ宇宙に生きる一つ人々 (one people inhabiting one universe)' について語るができる。違いは常に程度の問題にすぎないが, 意識の内に築かれる真の融和は絶対である。他惑星から今地球を訪れている存在者たちは, 表面的にもより深い意味においても, 間違いなく人間とは異なるにもかかわらず, 意識的知性を持つ存在である。意識は人間にとっても地球外存在者にとっても基礎であるがゆえに, 宇宙の多様な人々をつなぐ融和と意思疎通の基盤となる。信念が異なろうとも, 生物学的過程が異なろうとも, 獲得した諸能力が異なろうとも, 社会的システムおよび科学技術が異なろうとも, 意識的知性というすべての人々を貫く単純な糸が, 我々の融和を優雅に織り上げるのである。この本質的融和は, 純粹かつ不変であり, 知的生命体それ自身の存在にとり基本的であるがゆえに, 多様性の試練を受けることはない。

宇宙の人々の間に融和を確立するという課題は, 地球の人々の間に融和と平和を確立するという課題の壮大な拡張である。多様性, 差別, 違いには, より深い融和の基盤をしっかりと視野に入れながら, 相互尊重, 受容, さらに賞賛をもって対処しなければならない。一体性の視点は, 人々の間の多様性を排除することも拒否することもせず, むしろこの多様性を意識に根ざした普遍性のパラダイムへと関係づけるのである。この種の認識能力の発達, 人間の間での融和と平和のみならず, 人間と宇宙の他の知的生命体との間の融和と平和にとり, 最も重要な前提条件である。人類の長い, しかし今のところまだ不完全な世界融和への歩みの中で, 人間はいくつもの誤りと欠点を示してきた。我々が地球外の人々と平和的に交流するという課題に直面したとき, その誤りと欠点が忘れ得ぬ教訓となるように, 我々は心から願わなければならない。斯くも傑出した宇宙が見せる, 終わりなき多様性に耐え得るのは, 普遍的意識の静謐の中で形成された心のみであろう。これから数十年, 数百年, 数千年の間に, 人類の生存がどのような外面的進歩よりも意識の発達に依存することを, 我々は益々実感することになる。

ただ一通りに創造した一つの神 (one God) があるように、それが地球上であれどこか他の場所であれ、すべての意識的存在者の起源となった一つの神がある。偉大な宇宙の知性 (great Universal Intelligence) は、すべての意識的存在者を介してこの意識の光線を送り出している。その繊細で遍在する働きにより、我々は神と一つになり、互い同士が一つになる。人間の現実と、他の地球外の人々の現実が同じものであると私が述べるのは、これらの理由のためなのである。違いの視点で見れば、我々は多様であり無関係である。しかし一体性の視点で見れば、我々は異なる以上に類似しており、他人である以上に親類である。そうであるからこそ、我々は自らの内的現実に向き、我々人間との間の一体性のみならず、我々と宇宙の他の知的生命体との一体性をも見出さなければならないのである。つかの間の違いが、我々を困惑させるかもしれない。しかし、我々の意識の中にある本質的な一体性が、我々を裏切ることは決してない。なぜならば、'一つ人々が生きる一つ宇宙 (one universe inhabited by one people) ' がそこにあるからである。我々は彼らなのである。

(訳： 廣瀬 保雄)